

極楽寺だより

2020(令和2)年4月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

四月十五・十六日勤修予定

春の永代経法要中止のご案内

新型コロナウイルスの影響は、一向

に収束する様子が見えません。それど

ころか、世界的な規模で、ますます

拡大しています。

その為、三月の春の彼岸会法要に続き、今回の「春の永代経法要」

も中止とさせていただきます。残念ですが、何とぞご理解をお願い

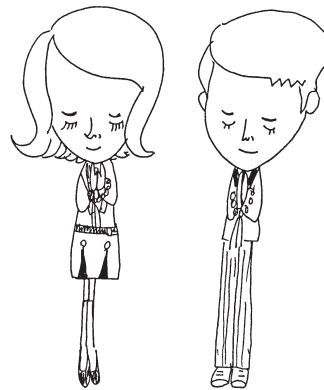
致します。高齢の方、持病のある方は、重病化する可能性が高

いので、特にご注意ください。

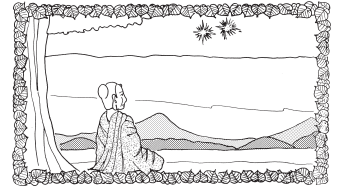
新型コロナウイルスは、自然災害です。自然の力には敵いません。

しかし、被害を最小限に抑えるためにも、一人ひとりが気をつけ

たいものです。



残念ながら、
今回の法座も中止といたします。



極楽寺掲示伝道 けいじでんどう



3月の言葉

忙しい時代です。仕事や習い事に追われて、大人も子どもも忙しく日々を送る時代になりました。まさに、時間に追われながら、日々のスケジュールをこなすことに精一杯のようです。

昔は、正月やお盆には、親族一同が集まりました。今よりも長い時間をかけて故郷に帰り、懐かしい人々と顔を合わせることを大切にしていました。法事や葬儀も、たくさんの方が集まっていました。が、今やそんな時代ではありません。簡素化され、短時間でこなすことが優先されるようになりました。これだけ忙しい時代ですから、それも致し方ないのかもしれませんが。

キリスト教の神学者で哲学者でもあるパノ



ウル・テイリツヒは、時間の概念を「クロノス」と「カイロス」に分けています。テイリツヒによれば「クロノス」は、時計が刻む秒分といった物理的な時間のことを指し、「カイロス」は主観的・体験的な時間を指します。

好きなことをしている時間って、あつという間に終わりますよね。それに比べて法事のお経の長いこと…。「クロノス」の時間としては同じでも、私が主観的に感じる時間「カイロス」は、その場によって長さが変わるので。

真宗僧侶で宗教学者の釈徹宗先生は、

「現代人はかなりクロノスを有効活用しています。かつては数日かかった移動距離を、数十分で到達することができます。／二時間も三時間も必要だった食事やお風呂の準備も、それほど手間をかけずに実行できます。ですから、現代人はひと昔前よりもずっと時間があまってしかるべきなんですよね。でも、あきらかに現代人の方が忙しくなっている。時間に余裕がない。あらためて考えてみれば、おかしな話ではありませんか。これは主観的な時間であるカイロスが委縮しているからだだと思います。いくら物理的な時間のクロノスの余剰があっても、カイロスが縮めば忙しくてイライラして、しんどくなってしまうのです。」（『異教の隣人』釈徹宗）

と指摘ししてきしておられます。確かに昔より便利べんりになったのですから、人生にゆとりがあつていいはずなのに、昔より気忙きせわしくなり、そのスピード感せまからか視野しやも狭せまくなっています。

私などは、コンビニのレジで前の人モタモタしていると、イライラします。道路工事どうろこうじの信号しんごうは、青になるまでの残り時間が示しめされていますが、あの一分の長いこと。そんな時にハッと気づくのです。「オレは、一分が待てない人間になつていいのか」と。「カイロス」が委縮いしゆくした時間の中なかにいますと、些細ささいなことでも辛抱しんぼうできなくなつてしまふ。どうやら「カイロス」の時間を延のばさなければ、心豊こころゆたかかな人生を送ることはできないようです。

では、「カイロス」の時間を延のばすにはどうすれば良いのでしょうか。釈先生しやくせんせいは、「そのもつとも良い装置そうちは宗教儀礼しゆきぎらいだ」と指摘しされています。

「人類ははるか古代から宗教儀礼しゆきぎらいを営いとなんできました。宗教儀礼の場ばうを創造そうぞうすることによつて、人類は共同きやうどう体を維持いじし、大きな存在そんざいに思いをはせ、個人こじんを超える感性かんせいを育ててきたのです。」（『異教の隣人』釈徹宗）

そう考えると、法事ほうじはとても大切

なものだと思います。阿弥陀様の前まへ



で、親戚一同あひが集まり、亡き人との思い出を味わいながら、昔話むかしばなしや近況きんきやうを語り合う。長いのちの歴史れきしがあり、様々なのちのつながりの中で、私の人生があることを実感じつかんする。日頃の気忙しい生活とは、まったく違った時間の流れと、世界の広さを味わう。まさに親戚あと会い、亡き人と会い、阿弥陀様と出会う場です。法事を大切に営いとなむことは、確かに「カイロス」の時間を延のばすことにつながると思います。ところが私たちは、法事さえもスケジュールをこなすように扱あつかい、ますます「カイロス」を委縮いしゆくさせてはいないでしょうか。

スイスの精神科医せいしんかいいで分析心理学ぶんせきしんりがくを

創設そうせつしたユングが一九二〇年代の頃、アメリカのプエブロ・インディアンを尋ねました。ユングはそこで、長老ちやうらうたちがヨーロッパの老人とは比べものにならない「悠然ゆうぜんとした落ち着おちき」と「気品きひん」をそなえていることに気づきます。なぜだろう。うらやましい。何とかその秘密ひみつを知りたい。そう思い、彼らと親したしくなる中で、ユングはどうとう「秘密」を聞き出しました。

「インディアンたちは自分が世界の屋根やねに住み、父ちちなる太陽たいやうの



息子たちとして、自分のたちの宗教的儀礼によって「われらの父が
天空を横切る手伝いをしている。それはわれわれのためばかりでは
なく、全世界のためなんだ」と確信しているのである。

こんな話ばかりしていると一笑に付すことができるだろう。しか
し、ユングはこれこそインディアン長老たちの「氣品」の由来



だと思つたのである。「彼らが父な
る太陽の、つまり生命全体の保護者
の、日毎の出没を助けている」という
「宇宙論的意味」をもつからだ、と彼
は述べている。

ヨーロッパが世界の中心と思われて
いたところに、ユングはすでにこのように言っているのは驚きである。

現在の状況は一九二〇年代よりもっとむずかしくなっている。現代
に生きる老人たちが、その使命をどこに見いだすのか。老いてなお
「氣品」を保つためには、老人も安閑としてはおられないのである。」

(『「老いる」とはどういうことか』 河合隼雄)

彼らは宗教的儀礼を通して、大きな世界と出遇い、自分の人生の
使命と意味を感じとっていたのです。今の時代なら、子どもでも

馬鹿にし笑うような話です。しかしそれを笑いながら氣忙しく生き
る私たちよりも、彼らの方が「悠然とした落ち着き」と「氣品」を
そなえている。なぜなら、時間の流れも、出遇っている世界のスケ
ールも、まったく違うのですから。

皆で集まり、阿弥陀様の前で手を合わせ、お念仏申す。それは
独りの殻を出て、雄大ないのちの歴史と、壮大ないのちの繋がり、
そして私を包む大きなはたらきに出遇うという営みなのでしよう。
委縮した「カイロス」の時間を延ばし、「悠然とした落ち着き」を
そなえるための装置でもあります。そこに心豊かな人生と、尊い出
遇いが開かれるのだと、教えられるのです。

とは言つても、そんな素晴らしい場であるお寺にいなながら、かな
り「カイロス」が委縮している私のあ
り方って、いかななものなのでしょう
か。これは相当迷いが深そうです。 ■





4月の言葉

「コーチデイベロッパー」という職業をご存知ですか。簡単に言えば、コーチのコーチです。

スポーツ界には、選手を指導するコーチがいます。しかしコーチは、どう指導すべきかを指導されることはありませんでした。選手の成長にはコーチが必要であるように、コーチが成長するにもコーチが必要であるはず。ということで、コーチを教えるコーチ、「コーチデイベロッパー」という職業が生まれたのです。今では日本スポーツ協会も、その養成に力を入れています。

社会人ラグビーのヘッドコーチやラグビー高校日本代表のコーチングスタッフを勤める今田圭太さんは、同時にバスケット・野球など、異なる競技のコーチデイベロッパーを勤めています。

今田さんは、コーチにこう問いかけます。↘

「あなたが組んだ今日の練習の目的は？」

「その目的に対して、練習は何点でしたか？」

「今後より良くするためにはどうすれば良いと思いますか？」

現役のコーチでもある今田さんは、こうした質問がコーチにとって心地良いものではないことは分かっています。自身のコーチ哲学が揺さぶられる。これまで積み重ねてきた経験が否定され、プライドが傷つくこともある。そこには、大きな痛みがともないます。

だからこそ今田さんは、社会学者ジャック・メジローの「大人の学びは痛みをとまなう」という言葉を大切にしておられるのです。

あくまで優先されるべきは、選手の成長。これまでの経験に執着すると、選手を一面だけで決めつけ、成長を妨げることにもつながる。握りしめた経験を手放すことが、痛みをとまなうとしても、それが学びを深め世界を広げることでも

あるならば、受け入れなくてはならない。いや、痛みをとまなうからこそ、学びが深まり世界が広がるのだ。

「NO PAIN NO COACH (痛みがなければ、コーチではない)」なのだ。

(Sports Graphic Number web『早大ラグビーで



の挫折を経て世界へ。へコーチを教えるコーチって何?』

私たち大人は、子どもたちに「間違いは、素直に認めてあやまりなさい」と教えます。

では、大人である私たちは、素直にあやまれているでしょうか。大人になり歳月を重ねるほど、積み重ねてきたものが大きいほど、それを握りしめ執着してしまいます。間違いだとわかっても、なかなか事実を受け入れられません。それどころか、自己正当化や保身のテクニックだけは長けていく。いつしか、素直に「ごめんなさい」と言えなくなつてはいないでしょうか。

親鸞聖人は、

「浄土真宗に帰すれども

真実の心はありがたし

虚仮不実のわが身に

清浄の心もさらになし」

〔正像末和讃〕

と、しるされています。阿弥陀様のみ教えに出会い、その道を歩んでいても、私には真実の心などなく、嘘いつわりばかりの身であり、清らかな心などあるはずもないと。これは、自己嫌悪や自己否定のよ



うに聞こえるかもしれないませんが、決してそうではありません。

宮城頭という先生は、暗闇に光が差し込むと周りが見えてくるよ

うに、阿弥陀様の光と出会うことで、私の本当の姿が知らされるのだ

と言われています。暗闇の中は手探りですから、自分が握りしめた

経験や知識がたよりです。そこに光が差し込むことで、自分が握りし

めていたのは、一面や一部分だったことに気づかされる。それをすべ

てだと思い、世界を決めつけていた自分の生き方は、嘘いつわりの態

度であつたと知らされるのだと。

それは、阿弥陀様からの指摘や

非難ではありません。私たちの嘘い

つわりに執着する姿に気づかせ、世

界の広さや深さを教えてくださる、

温もりあるはたらきなのです。

間違つていても、決して否定されない。「よく、気づいてくれたな」

と、喜んでくださる。温もりに包まれているからこそ、素直にうなず

くことができる。

つまり親鸞聖人の「虚仮不実」という言葉は、自ら発せられた目覚

めの言葉だと言えるでしょう。「何と小さなことにこだわり、閉じこ

もつていたのか!」と気づき、素直に頭が下がった姿です。そこに



は、阿弥陀様の光に包まれ、安心して自分の愚かさを受け止めることができる生き方が思われます。

また宮城先生は、阿弥陀様との出遇いについて、こうも言われています。

「それがたとえ、今までの自分の体験によって培ってきたものの考え方を、その根底から否定し、ひっくりかえすようなものであつても、それが事実であるかぎり、事実を事実として受けとめ、生きてゆく勇氣と情熱としてはたらくものなのです」(『真宗の本尊』宮城頭)

とはいっても、なかなか素直にはなれませんよね。自分の愚かさを受け止めることは、やはり痛みをとまいません。しかし、痛みを受け入れるからこそ開かれる世界があり、その勇氣と情熱を与えてくださる世界があるのです。まさに「仏法の学びは痛みをとまなう」と言えるのかもしれない。

おまけに「浄土真宗に帰すれども」と言われているように、私たちは、手放したつもりが、いつの間にか握りしめ、頭が下がったつもりが、また上がっている。そんなことを繰り返しています。そんな私たちだからこそ、励まし、導き、共に歩んでくださるのが、阿弥陀様なのだという安心感も、この言葉には込められているのでしよう。↓

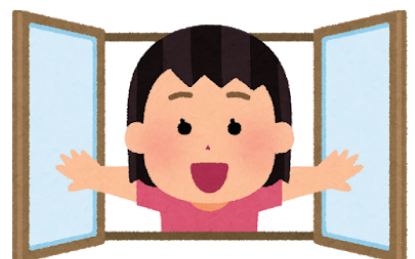


極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報にふり回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。少しでもお寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…、などと思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。

そう示してくださった親鸞聖人の姿には、閉じこもっていた小さく狭い世界の窓が開かれ、深く豊かな世界からの風が吹き込んできたような、爽やかささえ感じられるのです。■



第 38 回 児童念仏奉仕団のご案内

大津東組（長門・三隅地区の浄土真宗寺院）では、夏休みを利用して小学三年生から中学一年生を対象に、ご本山参りを企画しております。是非、ご参加のお呼びかけをお願いします。



- ◆ 期 日 2020(令和2)年7月28日(火)～30日(木)二泊三日
本願寺参拝 大阪ユニバーサルスタジオジャパン
- ◆ 対 象 小学三年生～中学一年生
- ◆ 参加費 42,000円(中学生は、44,000円)
- ◆ 申込み 6月30日までに極楽寺へ ※ 詳細は、お寺へおたずねください。



極楽寺ホームページ

極楽寺.comで検索を

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。



□新型コロナウイルスの影響が、まさかここまで世界的な規模で広がるとは、正直思いませんでした。過剰な反応はいけませんが、楽観的な行動にも気をつけなくてはなりません。冷静に対応するという事は、本当に難しい…。□便利さを追い求め、短時間で広範囲に人や物が動くことが可能になった現代社会の裏には、感染の拡大するス

ピードが高まるリスクもありました。同時に、インターネットやSNSの普及で、デマ情報の拡大するスピードも高まっています。「トイレトペーパーが品薄になる」という偽情報が流れた際にも、デマへの感染はあっという間に広がり、長門市のお店からもトイレトペーパーが消えました。不安な気持ちはわかりますが、せめて大量の買い占めだけは慎みたいものです。□トイレトペーパー騒動では、あるドラッグストアの店員さんが「コロナより人間が怖い」とSNSに書き込んだことが話題になりました。「今まで優しくった人々が、殺気立って、とにかくイライラをぶつけてくる。人が鬼に見える。正直ノイローゼ気味だ」と。鬼のような言動に走ったのは、「今まで優しくった」普通の人々でした。つまり私たちも恐怖や不安に感染すると、そんな行動をするかもしれないということです。□誰もが、不安を抱えています。しかし、不安に飲み込まれてはいけません。冷静に対応するのはとても難しいことですが、そんな中でも自分ができることを精一杯するしかありません。どんなに気をつけても、罹ってしまうこともあります。だからこそ、丁寧に地に足をつけて一日一日を生きていくしかないのです。□新型コロナウイルスの脅威は、ウィルス感染だけではないのでしょう。不安や恐怖、不信感に感染することもまた、大きな脅威だと思います。気をつけたいものです。(住)